

3) 天候を判断する山等

ア 晴雨の判断

a 判断の状況

本調査とともに併せて行った天候に関する伝承・諺の調査から、郡内の平野部にあるほとんどの集落では、主としてその西側に位置する「ニシノヤマ(：西の山)」と呼ばれた鈴鹿山脈や近くにある目立つ山にかかる雲の状況等により天候の判断がされていた。



錫杖ヶ岳とほえみそ

一方、鈴鹿山脈の麓に位置し東側が開けた集落では、主として東(海の方)の空における雲の状況等により天候の判断がされ、また、山間部など山に囲まれた集落では周囲の主だった山にかかる雲の状況等により判断されていた。

なお、隣接地域として調査を行った土山町(旧甲賀郡)や柘植町(旧阿山郡)の集落では、主として東側に位置する鈴鹿山脈等の山にかかる雲の状況等により天候の判断がされていた。

b 地域別の状況

地域	見る方向	判断をする山等
郡内平野部の集落	西方向	鈴鹿山脈、近くの目立つ山
郡内山辺の集落、山内地区、東柘植地区	東方向	鈴鹿山脈、東の空(又は山)
郡内の山間の集落	周囲	近くの主だった山

近くの目立つ(又は、主だった)山(例) 野登山、雨引山、三子山、錫杖ヶ岳等

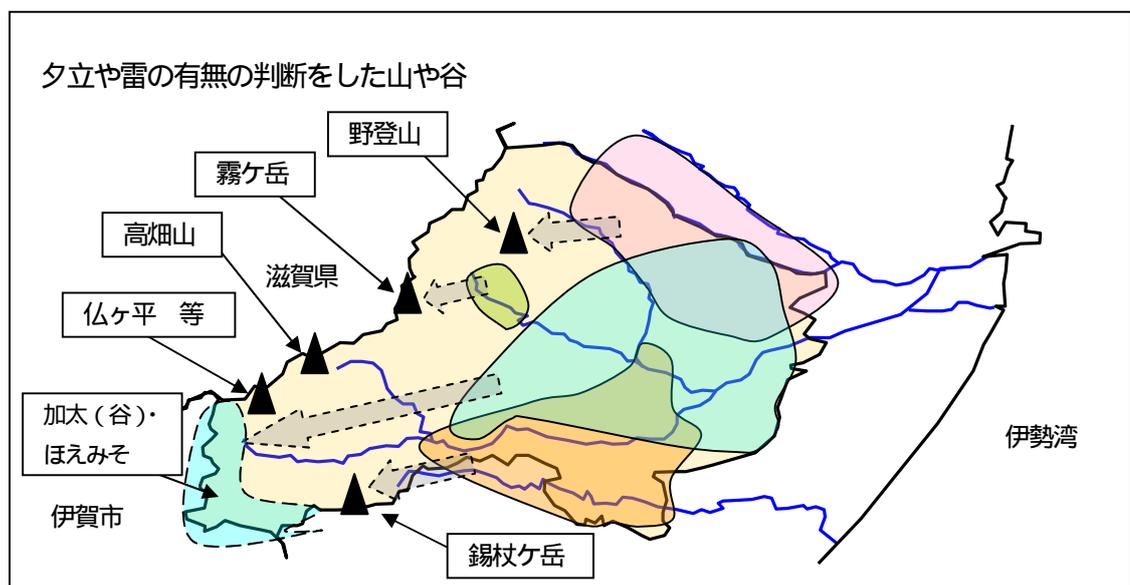
イ 夕立や雷の有無の判断

a 判断の状況

本調査とともに併せて行った天候に関する伝承・諺の調査から、郡内の平野部にあるほとんどの集落では、鈴鹿山脈や布引山地の方向の空に黒い雲(入道雲)が現れた場合、その場所により夕立や雷の有無についての判断がされていた。

b その他

集落毎に、概ね南西方向に夕立や雷が必ず来るとされる黒い雲の現れる場所があり、それを示す伝承等とともに、当時の嫁が一時帰郷した実家からの手土産としてよく持参したポタモチとを関係づけ、共に必ず来るものという伝承等が多くの集落においてみられた。



4) 雨乞いをした所

ア 採録した場所

a 近くの寺社

- ・ 神社(宮さん) 寺

b 他の施設・広場

- ・ 旧小学校、津賀池の下、東海道、公民館

c 山(山の高い所に設置の寺社を含む。)

- ・ 集落近く 近くの小高い場所
- ・ 謂れのある山 雨引山(:アマビキヤマ)、石尾山(:イシオヤマ)、観音山(:カンノンサン)、経塚(:キョウヅカ)、庚申山(:コウシンヤマ)、明星山国分寺(虚空蔵さん=明星ヶ岳)、シャクガオキ、錫と山(:シャクトヤマ=錫杖ヶ岳)、入道山(:ニユウドウサン=入道ヶ岳)、野登山(:ノノポリサン)、羽黒山(:ハグロヤマ)



野登山

イ 採録場所の状況

当時又はそれ以前に雨乞いが行われた場所としては、平野部の多くの集落では「宮さん」と呼ばれた各地域の神社が最も多く、その他、寺、学校等の人寄りができる場所で行われた。

山辺の集落では昔から天候に関して謂れのある近くの山に登り、その頂上等(場所によっては山中に設けられた寺社)で雨乞いが行われた。

こうした雨乞いは、多度神社、片山神社(関町坂下)等、当時、雨乞いで有名な神社でお札等を受け、集落へ持ち帰り、近くの神社等でお祈りしたともいう。

なお、水に恵まれた地域では雨乞いを行っていなかったという集落もみられた。